

<p>令和 2 年 5 月 2 9 日</p>	<h1>病害虫発生予報</h1> <h2>6 月号</h2>	<p>茨城県病害虫防除所 茨城県植物防疫協会</p>
-----------------------------	--------------------------------	--------------------------------

薬剤散布時には周囲への飛散防止に努めましょう
～令和 2 年度茨城県農薬危害防止運動が始まります (6/15～9/14)～

< 目 次 >

<h3>I. 今月の予報</h3>	
<p>【注意すべき病害虫】</p>	
<p>水稲：縞葉枯病（ヒメトビウンカ）</p>	1
<p>【防除所レポート】イネ縞葉枯病（ヒメトビウンカ）の防除適期の予測</p>	1
<p>水稲：ニカメイガ</p>	2
<p>ナシ：黒星病，ナシヒメシンクイ（第二世代幼虫）</p>	3
<p>【防除所レポート】ナシヒメシンクイの防除適期の予測</p>	4
<p>果樹共通：チャバネアオカメムシ</p>	4
<p>半促成ピーマン：アザミウマ類</p>	5
<p>【防除所レポート】小麦の赤かび病の発生状況と今後の対策について</p>	6
<p>【その他の病害虫】</p>	
<p>水稲，ブドウ，半促成ピーマン，夏ネギ</p>	7
<h3>II. 今月の気象予報</h3>	
<p>最新の農薬登録内容は，（独）農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」（http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm）で確認することができます。</p>	
<p>詳しくは，病害虫防除所へお問い合わせ下さい。 茨城県病害虫防除所 Tel：0299-45-8200 予報内容は，ホームページでも詳しくご覧いただけます。 ホームページアドレス http://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/boujosidou/ フェロモントラップデータ随時更新中</p>	<p><HP QR コード></p> 

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

水 稲

1. 縞葉枯病（ヒメトビウンカ）

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
平年並	多い	県西地域, 県南の一部地域

[予報の根拠]

- ① 2～3月に採集したヒメトビウンカ越冬世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルスの保毒虫率は、県西地域9地点中8地点、県南地域3地点中3地点において5%以上の高い値となった。
(令和2年3月24日発表 病害虫発生予察注意報第4号参照)
- ② 有効積算温度から計算した水田におけるヒメトビウンカ第一世代成虫の産卵最盛期は、今後の気温が平年並に推移した場合、平年並～やや遅いと予測される。
- ③ 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年より高く推移すると予想される。

[防除上注意すべき事項]

- ① 昨年、本病の発生が認められた地域で、ヒメトビウンカを対象とした育苗箱施用してもなお本病の発生が多かった水田や、本年育苗箱施用をしなかった水田等では、ヒメトビウンカを対象とした本田防除を行う。防除適期については下記の防除所レポートを参照する。
- ② 育苗箱施用と本田散布の体系防除を行う場合は、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRACコードの異なる薬剤を選択する。
- ③ 5月中下旬に採集したヒメトビウンカ第一世代幼虫におけるイネ縞葉枯ウイルスの保毒虫率について、今後調査を行い、6月中旬頃に病害虫防除所ホームページに情報を掲載する予定なので参考にする。

防除所レポート [イネ縞葉枯病（ヒメトビウンカ）の防除適期の予測]

- ① イネ縞葉枯病対策としてのヒメトビウンカの本田散布の防除適期は、ヒメトビウンカ第二世代幼虫の発生開始期から増加期（産卵最盛期から7日後までの間）である。
- ② 5月29日現在、有効積算温度から計算した水田におけるヒメトビウンカ第一世代成虫の産卵最盛期は平年並～やや遅いと予測される（表）。
- ③ 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年より高く推移すると予想されるため、防除適期が予測より数日早まる可能性がある。

表 水田におけるヒメトビウンカ第一世代成虫の予測産卵最盛期および予測防除適期※

	アメダス地点	古河	下館	下妻	つくば	土浦
予測産卵最盛期	本年	6/14	6/18	6/18	6/19	6/16
	平年値	6/12	6/16	6/15	6/17	6/15
予測防除適期	本年	6/14-21	6/18-25	6/18-25	6/19-26	6/16-23

※産卵最盛期は、今後の気温が平年並に推移した場合の有効積算温度から計算した予測時期（5月29日現在）。
防除適期は、予測した産卵最盛期から7日後までの間。

(水稲 続き)

2. ニカメイガ

[予報内容]

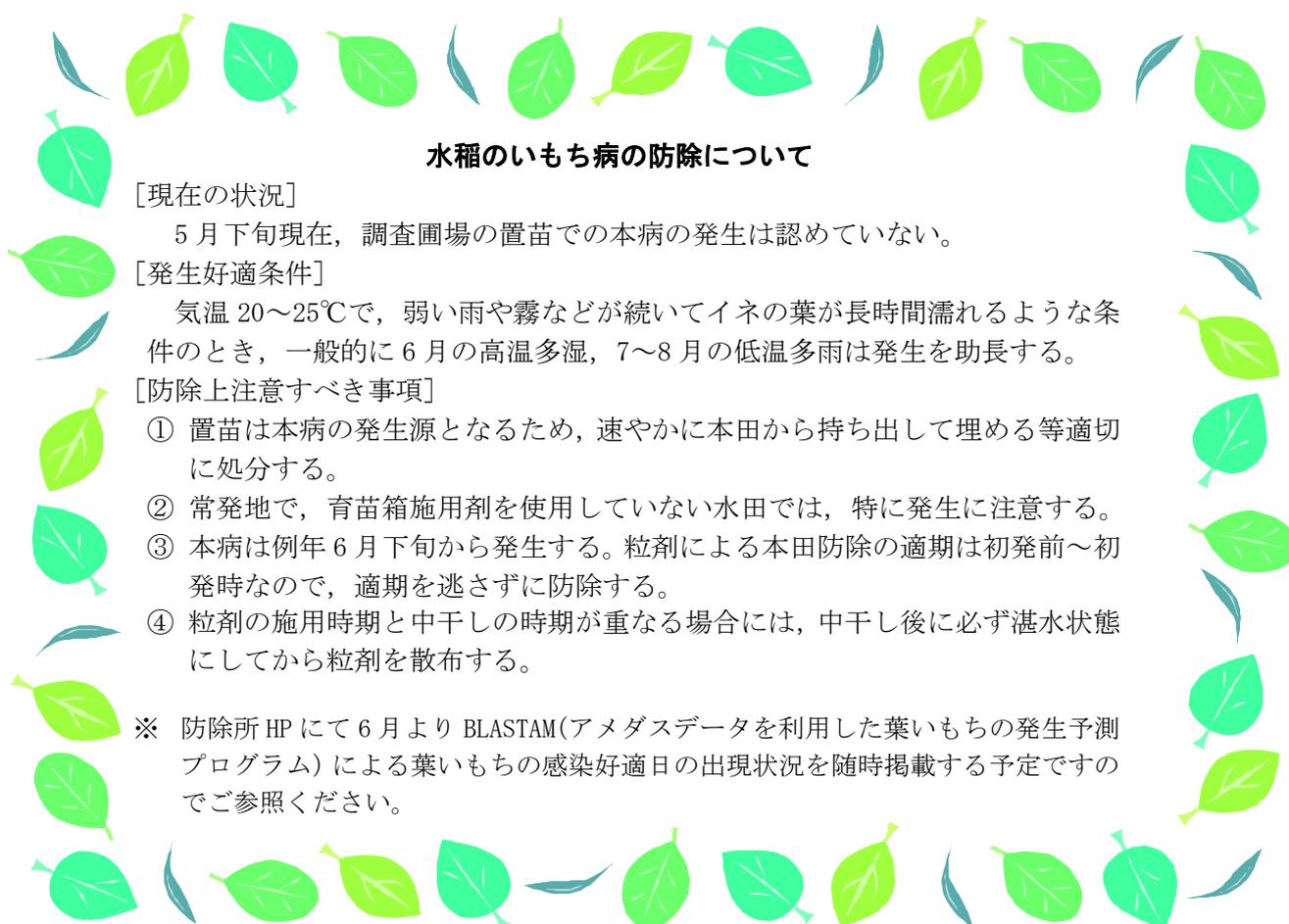
発生時期	発生量	発生地域
平年並	やや多い～多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① フェロモントラップへの誘殺時期は、龍ヶ崎市および筑西市で平年並である。
- ② 5月第4半旬までのフェロモントラップへの総誘殺数は、筑西市で平年より多く、龍ヶ崎市で平年よりやや多い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 例年発生が目立つ水田では、6月上旬に第一世代幼虫を対象とした薬剤防除を実施する。



水稲のいもち病の防除について

[現在の状況]
5月下旬現在、調査圃場の置苗での本病の発生は認めていない。

[発生好適条件]
気温 20～25℃で、弱い雨や霧などが続いてイネの葉が長時間濡れるような条件のとき、一般的に6月の高温多湿、7～8月の低温多雨は発生を助長する。

[防除上注意すべき事項]

- ① 置苗は本病の発生源となるため、速やかに本田から持ち出して埋める等適切に処分する。
- ② 常発地で、育苗箱施用剤を使用していない水田では、特に発生に注意する。
- ③ 本病は例年6月下旬から発生する。粒剤による本田防除の適期は初発前～初発時なので、適期を逃さずに防除する。
- ④ 粒剤の施用時期と中干しの時期が重なる場合には、中干し後に必ず湛水状態にしてから粒剤を散布する。

※ 防除所 HP にて6月より BLASTAM(アメダスデータを利用した葉いもちの発生予測プログラム)による葉いもちの感染好適日の出現状況を随時掲載する予定ですのでご参照ください。

ナシ

1. 黒星病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 5月下旬現在、発病葉率（本年値 1.3%、平年値 0.1%）および発病果率（本年値 1.5%、平年値 0.3%）はともに平年より高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発病した果実、葉および果そう基部等は二次伝染源となるため、見つけ次第除去して土中深く埋める等適切に処分する。
- ② 薬剤散布は、発病部位を除去した後に行うと効果的である。
- ③ 本病は曇雨天が続くとまん延するため、令和2年版露地赤ナシ無袋栽培病害虫参考防除例を参考に、散布間隔が10日以上空かないように防除を実施する。
- ④ 薬剤散布は、10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に行う。圃場の周縁部等、薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。

（令和2年5月29日発表 病害虫発生予察注意報第1号参照）

2. ナシヒメシンクイ（第二世代幼虫）

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 5月下旬現在、第一世代成虫の発生時期は、越冬世代成虫のフェロモントラップへの誘殺最盛期と有効積算温度から、平年並と予測される。
- ② 5月下旬現在、フェロモントラップへの越冬世代成虫の誘殺数は、かすみがうら市、石岡市で平年より多く、土浦市で平年並、小美玉市、笠間市で平年よりやや少ない。

[防除上注意すべき事項]

- ① 今後、第二世代幼虫が発生するため、令和2年版露地赤ナシ無袋栽培病害虫参考防除例を参考に適期防除に努める。防除適期については、下記の防除所レポートを参照する。
- ② 薬剤散布は、10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に行う。圃場の周縁部等、薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。

防除所レポート [ナシヒメシンクイの防除適期の予測]

- ① ナシヒメシンクイ第二世代幼虫を対象とした防除適期は、第一世代成虫の誘殺数がピークに達した日の7～9日後である。
- ② 各地点の第一世代成虫の誘殺最盛期は、越冬世代成虫のフェロモントラップへの誘殺最盛期と有効積算温度から予測し、おおむね平年並である。
- ③ 気象情報によると、向こう1か月の気温は平年より高く推移すると予想されるため、防除適期が予測より数日早まる可能性がある。
- ④ 表中のかすみがうら市、土浦市、筑西市(旧下館市)については、今後、病害虫防除所ホームページで誘殺状況を随時更新するので参考にする。

表 調査圃場におけるナシヒメシンクイ第二世代幼虫の予測防除適期

地点	第二世代幼虫の予測防除適期 ¹⁾		
笠間市(旧友部町)	6月23日	～	6月25日
笠間市(旧岩間町)	6月23日	～	6月26日
小美玉市	6月24日	～	6月26日
石岡市	6月20日	～	6月23日
かすみがうら市	6月16日	～	6月20日
土浦市	6月23日	～	6月29日
筑西市(旧下館市)	6月24日	～	6月29日
筑西市(旧関城町)	6月20日	～	6月22日

1) 予測した第一世代成虫の誘殺ピークの7～9日後とした(5月28日現在)。

果樹共通

1. チャバネアオカメムシ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 本年2月上旬の越冬量調査における成虫の越冬数(本年値1.5頭, 平年値2.1頭)は平年並, 越冬地点率(本年値48%, 平年値36%)は平年よりやや高い。
- ② 5月下旬現在, ナシ果実の被害果率(本年値0.02%, 平年値0.01%)は平年よりやや高い。
- ③ 5月第4半旬までの予察灯への総誘殺数は, かすみがうら市で平年より多い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 笠間市におけるカメムシ類に吸汁されたサクラ果実の割合は5月中旬で77～97%となっており, 今後, 餌を求めて果樹園へ飛来する可能性があるため注意する。夜温の上昇に伴い活動が盛んになり, 果樹園への飛来が増加するので注意する。果樹園内でカメムシ類を確認した場合には, 活動が鈍い早朝に薬剤防除を行う。
- ② 多目的防災網(6mm目または9mmクロス目等)はカメムシ類の園内への侵入を防ぐため, 被害軽減に有効である。

半促成ピーマン

1. アザミウマ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い～多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 5月下旬現在、寄生花率（本年値 90.5%，平年値 63.7%）は平年よりやや高く、発生地点率（本年値 100%，平年値 91%）は平年並である。
- ② 5月下旬現在、被害果率（本年値 22.8%，平年値 2.7%）は平年より高く、発生地点率（本年値 75%，平年値 36%）は平年よりやや高い。

[防除上注意すべき事項]

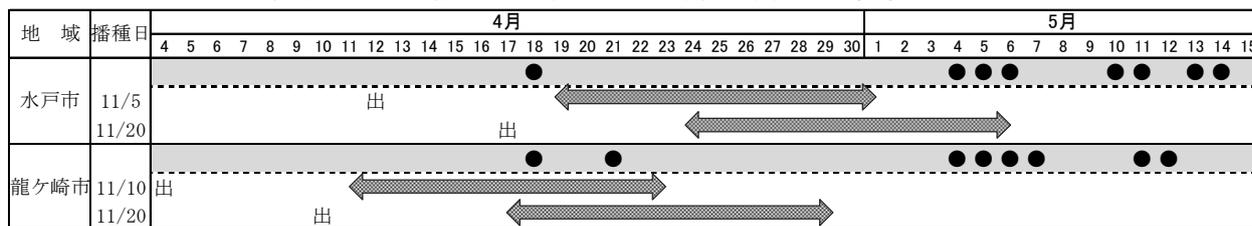
- ① アザミウマ類は増殖が速く、各種ウイルスを媒介するので発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤散布は、薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ③ 天敵を使用する場合は、影響の小さい薬剤を選択する。

小麦の赤かび病の発生状況と今後の対策について

[現在の状況]

- ① 5月下旬現在、小麦の赤かび病の発病穂率(本年値 0.3%, 平年値 0.5%), 発生地点率(本年値 36%, 平年値 31%)ともに平年並である。
- ② 小麦が赤かび病に感染しやすい時期は開花期(出穂期 7~10 日後)から 10 日間程度である。水戸市および龍ヶ崎市(農業研究所圃場)では、下図のように本病の感染好適条件が出現した。

図 小麦の出穂期と赤かび病菌の子のう胞子飛散好適条件の出現状況



● : 子のう胞子の飛散好適日

(日最低気温 10℃以上, 日最高気温 15℃以上で, 湿度 80%以上かつ降雨日とその翌日。ただし, アメダス龍ヶ崎は湿度データがないため, 気温と降雨条件のみ参照した。)

出 : 出穂期(圃場の 40~50%程度の茎が出穂した日)

← : 感染しやすい時期(開花期(出穂期の 7~10 日後) から 10 日間)

※地域や圃場により出穂期や飛散好適条件の出現状況は異なるので, 参照の際は注意する。

[収穫期以降の対策]

- ① 収穫が遅れると, 被害粒から健全粒へと感染が広がる恐れがあるため, 適期収穫に努める。また, 圃場内で倒伏した部分は多湿条件となり, 感染が広がっている恐れがあるため, その部分は刈り分けて処分する。
- ② 含水率の高い麦を収穫した場合, 袋の中で本菌がまん延することがあるので, 収穫後は時間をおかずに適切な乾燥・調製を行う。
- ③ 小麦では, グレーダーによる粒厚選別(2.4mm 以上)等は被害粒の除去に有効である。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
水稲	イネドロオイムシ	発生量：平年並 ～やや少ない	5月下旬現在，平年並～やや少ない発生である。
	イネミズゾウムシ	発生量：やや少ない	5月下旬現在，平年よりやや少ない発生である。
ブドウ	灰色かび病	発生量：平年並	5月下旬現在，平年並の発生である。
	べと病		
半促成ピーマン	灰色かび病	発生量：平年並 ～やや多い	5月下旬現在，平年並～やや多い発生である。
	斑点病	発生量：平年並	5月下旬現在，平年並の発生である。
	うどんこ病	発生量：少ない	5月下旬現在，平年より少ない発生である。
夏ネギ	黒斑病（葉枯病を含む）	発生量：平年並 ～やや多い	5月下旬現在，平年並～やや多い発生である。
	ネギアザミウマ		
	ネギハモグリバエ		

II. 今月の気象予報

関東甲信地方1か月予報

(予報期間 5月30日から6月29日)

気象庁(5月28日発表)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]	要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
	気温	関東甲信全域	10	20	70
	降水量	関東甲信全域	30	40	30
	日照時間	関東甲信全域	40	30	30

[概要]

期間の前半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

<1週目の予報> 5月30日(土曜日)から6月5日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率80%

<2週目の予報> 6月6日(土曜日)から6月12日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率50%

<3週目から4週目の予報> 6月13日(土曜日)から6月26日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率ともに50%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、作用機構分類^{*}(FRACコード、IRACコード)の異なる薬剤を用いてローテーション散布しましょう。

※作用機構分類については、病害虫発生予報5月号(令和2年4月24日発表)の防除所レポート参照

- 5 農薬の使用後は、散布器具やホース内等に薬液が残らないように良く洗浄しましょう。